



## 25春闘について考えよう! ①

### ●春闘（春季生活闘争）とは？

春闘とは、企業の決算前の毎年2～3月に賃金の引き上げなどを求める取り組みです。産業別にそれぞれの企業の労働組合が団結し、統一した要求を掲げることで影響力が大きくなり、賃金引き上げを実現しやすくする効果があります。現在は労働者側は「連合」が、経営側は「経団連」が方針を打ち出し、それに基づいて産業別に具体的な要求を掲げ、個別企業の労使で団体交渉を行い決定する形態をとっています。

春闘の三要素  
「世間相場」

会社

JR東労組

経団連方針

JR連合方針

春闘の三要素  
「会社の支払い能力」

春闘の三要素  
「労働組合の組織力」

- 産別組織は自動車総連、電力総連など業種ごとにある。JR東労組は「JR総連に加盟」している。
- JR総連は、連合方針と加盟する単組（JR北海道労組、東労組、西労、貨物労組など）の賃金実態を加味して「JR総連春闘」としての統一方針を決定する。

JR総連は1月31日に、第48回定期中央委員会で厳しい生活実感を打ち破るため、2025春闘統一方針（ベア、一律15,000円を要求すること）を決定しました。※JR東労組は2月6日の第51回定期中央委員会で2025春闘の方針を決定します。

そもそも賃金とは「労働力の価格」です。資本家は資本を元手に会社を立ち上げ、付加価値を生むことで利益を上げますが、付加価値を生むにはその「手段」が必要です。それが私たちの「労働力」（生産物を作るために費やされる、人間の精神的・肉体的な諸能力です）会社は鉄道・バス・医療の仕事を行うために様々な設備を購入しますが、それだけでは会社は成り立ちません。会社は労働者から労働力を予め購入し、その「労働力」をもって労働者が設備やシステムに働きかけることで利益を生み出す仕組みが成立します。そのため会社は、設備を購入するのと同様に「労働力」を購入するため「賃金」を支払っています。

労働者は一日働けば疲労するため、明日も労働力を売るためには、精神的・肉体的に回復させる費用が必要です。つまり、賃金には「衣食住」の生活費が含まれているということです。これを労働力の「再生産費」と言います。また、次の世代の労働者を育てる費用も子供の養育費として労働力の「再生産費」に含まれます。

